

監査等委員メッセージ

変革期において、監査等委員会には、執行の状況を的確に把握し、現場に潜むリスクの兆候を捉え、取締役会の監督機能を支える役割が求められています。
3名の監査等委員が、それぞれの立場と専門性から、活動の振り返りと今後の課題を語ります。



現場・執行・社外を繋ぎ、 監査・監督機能の 実効性を高める

取締役 常勤監査等委員
磯部 謙二

常勤監査等委員に就任し、3年目を迎えています。社内監査等委員の立場として、社内の主要会議体への出席によって得られた執行側の情報をもとに、現場におけるリスクの所在や課題を客観的に捉え、社外監査等委員の方々にお伝えするようにしています。監査計画や往査先の決定、役員面談での質問事項に関しても、社内で知り得た執行側の情報をベースに社外監査等委員の方々の意見も取り入れてより有益な監査活動となるように取り組んでいます。往査を通じて痛感するのは、「現場」「現物」「現実」の基本を押さえることの重要性です。そこから潜在的なリスクや課題が見つかることもあります。また、取締役や執行役員、主要な拠点長、グループ会社へのヒアリングも年間40件ほど実施し、実態把握に努めています。監査等委員会の実効性評価についても毎年実施しています。監査等委員会の構成・運営、社外取締役との連携、三様監査など幅広い観点での意見交換を通して、委員会での議論の活性化や、委員間のコミュニケーションの深化が進みました。常勤監査等委員である自分自身に課す課題としては、社内が存在しているリスクへの感応度をさらに研ぎ澄ますことです。現場に精通し過ぎると、社内の事情を酌みたくなるものですが、自分自身を律して客観的な判断ができる能力を身につけていきたいと思います。こうした意識を持ち、社外監査等委員の方々へ適時適切な情報提供を充実させることで、監査等委員会のさらなる実効性の向上に繋がっていきます。



現場理解と客観性を両立し、 リスクの兆候を捉える

社外取締役 監査等委員
永富 史子

この1年を振り返ると、社外の監査等委員として、主要部門へのヒアリングによる情報収集を含め、良いコミュニケーションを図ることができたと考えています。事業所への往査などを通じて感じるのは、事業の現場には宝物が多く埋まっている、つまり見るべき部分が多いことです。一方、現場の方々の話を聞くほど理解は深まりますが、そこに引きずられて「分かったつもり」にならず、客観的な視点とのバランスを取り、リスクを見失わない意識は強く持つようにしています。監査等委員会の実効性を高める上で重視すべきことの一つに、グループ監査の徹底があります。グッドニュースに比べ、バッドニュースは現場から伝わりにくく、特に遠方のグループ会社や新たにグループに加わった会社では報告が遅れがちです。こうした特性を踏まえ、リスクの兆候を早期に把握する体制づくりが今後の課題だと考えています。取締役会の実効性向上という観点では、重要議案に関する事前説明の機会が設けられていることを評価しています。社外取締役にあって、社内の状況や議案の背景に関する情報は限られるため、事前に前提情報や論点を確認できることは、議論の質を高める上で有意義です。また、説明する執行側にとっても論点整理の機会となり、結果として取締役会の運営効率化にも繋がっていると感じています。当社の監査システムは、監査等委員会と社長直轄の内部監査部門が相互に補完し合う仕組みが出来上がっており、すでに完成度の高い状況にあると評価しています。ただ、十分に機能している組織でも、リスクを拾い切れない部分は常に存在します。監査等委員の一人として、課題意識は常に持ち続けたいと思います。



成長投資とM&Aに伴うリスクを、 会計とガバナンスの 視点から見極める

社外取締役 監査等委員
内山 英世

私自身、この2年間はさまざまな方々とコミュニケーションを深めました。監査等委員である取締役が、社会から何を期待されているのかを十分に自覚し、その観点を踏まえたコミュニケーションが重要だと感じています。事業所への往査では、内部監査部門との連携が鍵を握ります。内部監査部門は、あらかじめ定めた監査計画に基づいて着実に監査を行っています。そこにマネジメントレベルでのものの見方を加えることで、さらに深い監査が可能になるはずです。こうした観点からも、内部監査部門のさらなるレベルアップは大きな課題の一つと捉えています。現場往査も、監査等委員としての重要な業務の一つです。また、現場往査では、内部通報制度が機能しているか、トップによる不正を牽制できる体制になっているかに加え、現場が懸念していることや、それがどのレベルまでエスカレーションされているかを確認しています。往査で把握した課題や気づきは取締役会にも報告し、会社として進める改革の加速に繋げていきたいと考えています。私自身は公認会計士であり、会計士としての立場から2つの論点をもって監査にあたっています。一つは、自動車関連事業の業績が良好な中で、成長投資という名のもとに、将来を過度に楽観した事業計画に基づく会計処理がなされていないかという点。もう一つはM&A先に関して、当初の買収目標を達成しているかの恣意的な会計処理や報告がなされていないかという点です。こうした論点はもちろん、常に株主・投資家を含めた幅広いステークホルダーの視点を持ち、経営の監督や監査にあたることを強く意識しています。



PROLOGUE

01 価値創造ストーリー

02 成長戦略

03 企業価値を向上させる資本

> 04 コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス

社外取締役座談会

監査等委員メッセージ

新任社外取締役メッセージ

取締役議長メッセージ

役員一覧

リスクマネジメント

コンプライアンス

情報セキュリティ

05 データ